

アトリエ 琉游舎 だより 50号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2019年4月10日発行

二つの鳥居



行き当たりばったりの鹿児島の旅で出会った「永遠のいのち」の住まう場所。3月26・27日

- ・二つとも鹿児島県にある鳥居です。一つは霧島神宮古宮址。高千穂河原という霧島連峰の登山口にありますが、もとは高千穂連峰の山頂にあった神社が度々の噴火で平安期にこの場所に遷座され、鎌倉時代の大噴火で建物がことごとく焼失し、その後、麓の安全な場に再度遷座され今に至ります。ですからここは鳥居と社殿跡地があるだけ。
- ・一つは桜島にある黒神埋没鳥居です。大正3年の桜島大噴火で島の北東にあたる黒神地区腹五社神社の鳥居はたった1日でこのように軽石や火山灰に埋め尽くされました。当時の村長の「後世に噴火の記憶を残そう」との英断により、噴火直後の姿そのままに現在に残されています。
- ・鳥居は神様の住まわれている聖域と私達の住む俗世の境界にあります。鳥居の先は神霊の宿る神聖な場所。
- ・古宮址の鳥居の先のその神聖な場所は、かつての鮮やかな社殿跡を想像させるものは何ひとつなく、荒漠とした土地と大爆発の度に山容を変えたであろう、美しく優美な活火山があるだけ。
- ・黒神埋没鳥居のこちら側も、同じように火山灰に埋もれたまま。しかしその参道の両側は今は中学校。大正3年以来、積もった火山灰の上の校舎でほかの中学校と変わりなく日々教育が営まれています。
- ・この2つの聖俗境界の地に立つと、そこではたしかに永遠のいのち達が行き交っていました。そのようなところを人はそれを神様と呼び仏さまと呼び霊と呼びそして今風に言えばパワースポットと呼ぶのでしょうか。

木 金 土 日

4・5月のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
			11 映画会 13:30	12	13 詩話会 13時半から	14
15	16	17	18 映画会 13:30	19	20	21
22	23 読書会 13:30	24	25 映画会 13時半 居酒屋の会 16時	26	27	28
29	30	5月1日	2	3	4	5 写経会 13時半
6	7	8	9 映画会 13:30	10	11 詩話会 13時半から	12
13	14 読書会 13:30	15	16 映画会 13:30	17	18	19

映画会
毎週木曜日
13時半から

写経会
5月5日(日)
13時半から

詩話会
4月13日(土)
5月11日(土)
13時半から

読書会
4月23日(火)
5月14日(火)
13時半から

令状

漢字は意味そのものを表す文字です。あるものに名前を与えるとき、そこにその人がその漢字を選んだ意図や思いがそのまま表現されてしまいます。どんなにそんなつもりでこの漢字を使ったのではないと言いくるめようとも、文字の一字一字が持つ意味はごまかしようがありません。ただそれはその漢字を使う側と受ける側に共通の良識が要求される限りにおいてごまかしようがないという意味で、そもそも良識も見識もない人たちが一方的にある意図をもって送り出す場合、漢字は意味を誤読させ、人を誤った行為に導き、凶器にもなるとも厄介な表意文字なのです。

最近私たちはある令状を受け取りました。その令状に書かれた指令は勅令に名を借りたある司令官からの命令でした。「内外、天地とも平和が達成されることを願いながら自然災害の多かったこの平成時代を終わりにして、律令時代のように禁令を守り、法令に従順に号令一下、和をもって尊しとするまほろばの大和の国に復古せしめ、仮令(たとえ)希望や花咲かせる平和の時代が幻想のままであろうとも、此の政令に従順であればかならず、令衆生入於美国(衆生をして美しい日本にいらしむべし)」という平和の訓令が発令されたのでした。

平和は訓令によって作られるものではありません。訓令によって作られる平和はある一面的な正義や理念によって作られる平和であり、それは必ずその正義を受け入れられない人々との争いをもたらずでしょう。人の和は指令によって拵げられるものではありません。異なる考えや自由な発想の中から、互いを認め合うことで和が出来上がっていきます。指令によって造られた和は、閉鎖的な輪、排他的なカルトの輪です。「人々が美しく心を寄せ合う中で生まれ育つ文化」は布令によって産まれません。文化は互いの自由な想像力のせめぎあいと認め合いの中で具現化されたものの総称です。令によって達成されようとする文化や平和や希望はどんなものなのか私にはさっぱり想像ができません。誰かわかる人は教えてください。切なる願いです。

朝令暮改は世の常ですが、此の令状は禁足令や箝口令まで敷いて発令したものですから、もはや撤回されることはないでしょう。強権的な言論弾圧の方がまだ分かり易くてよいのですが「巧言令色鮮し仁」。巧みな言葉であらゆる言論機関を使って「巧言令を弄されコントロールされたら、私たち市井の民は「仁」のあるなしを考えるより、万歳をした方が面倒になりません。日本人はことうやうやって勅令や令旨を騙る、令名高き令兄司令官閣下の命令を古来あきらめとともに繰り替えし受け入れてきたのでしょうか。合掌

改名

行先を厳密に決めず、泊る場所と往復の交通機関だけ予約してあとは車で行き当たりばったり。そんな旅は思いがけない発見があり楽しいですね。最近道路地図も見ずにカーナビを頼りに目的地に向かうので、道路標識や看板を見て「えっ?ここはどこ?」というような名前に出会うことが多々あります。

先日大隅半島と薩摩半島の気ままな旅にでかけてきました。指宿から開聞岳の美しい姿を眺めながら坊津を目指してドライブしていると、枕崎の手前あたりから標識などに「南九州市」とか「南さつま市」と言う地名が出て来るようになったのです。目的地の坊津は遣唐使船の寄港地や倭寇、薩摩藩の密貿易の拠点として栄え、鑑真和尚が上陸した地とも言われる歴史的な地名です。その名前がいつまで走っても出てこないのもスマホで調べてみると坊津方面は南さつま市に、次の目的地の知覧は南九州市と言う名前になっていないのですか。知覧は言わずと知れた特攻隊の出撃基地があったところ。いずれも地名を聞いただけでその土地の歴史と重要さがすぐ思い浮かびます。坊津は南さつま市、知覧は南九州市。この名前に何を思い浮かべるといえるのでしょうか。名前は過去の歴史を内包し未来を作る指標となるものです。名前を変える場合には過去に対する敬意と未来への責任が必要ですからこの名前たちはどのような未来を私達に与えてくれるのでしょうか。「さぬき市」「あわら市」「おいらせ市」「ひたちなか市」「まんのう町」ときがわ町」これらは住民が漢字で書くのは無理と判断したのでしょうか。失礼な話です。でもまだかつての漢字表記は想像できます。では次の名前はどうか? 「みどり市」「さくら市」「あさぎり町」ここはどこ、あなたはだーれ。こんな大風呂敷をひろげたものもあります。「つくばみらい市」「南アルプス市」「中央市」「四国中央市」「伊豆の国市」「甲州市」。次はちょっといい感じがあります。「北名古屋市」「南房総市」「西東京市」探し出したらきりがありません。もしこの名前に関係する人が、この文章を読んで不快な思いを持つたらごめんなさい。これも地域の司令官殿が発令した改名命令ですから、あきらめて受け入れてください。かく言う私の大切なふるさとがかつての「氏家町」いまの「さくら市」です。歴史も意味も未来への責任も感じられない、ノー天気な名前です。

親から貰った名前を変えることはもってのほか。ところが私は三年前に「出」から「出流」に改名するところの暴挙に出ました。暴挙が愚拳なのか快拳となるか。改名された各行政担当者の方、お互い愚拳とならないよう日々努力しましょうね。